

鈴木やす子

市政を千石づく
前向き提案



北茨城民報 号外

通常号は週刊で発行しています。

日本共産党北茨城市委員会

北茨城市磯原町豊田 1030-2

鈴木やす子事務所 0293-42-2462

メール suzuki8suko@gmail.ne.jp



自然に寄り添いながら、安心・安全なまちで、いざというときに助ける人のつながり。そんな「ふつうの暮らし」の大切さを、大震災であらためて教えてもらいました。あれから6年。自公による強権政治のもとで、戦争法、米国追従、憲法改悪、格差と貧困、消費税、共謀罪…、政治の課題や毎日の不安は積もるばかりです。私は、みんなが声をあげることで展望は広がると信じ、一人ひとりの思いをつないでまいります。原発ゼロ、戦争法廃止、いのちとくらしを守るために行動します。

力あわせ、あたたかい市政に

防災対策

震災時に困ったのは、水や食料、燃料、そして「情報」がなかつたことでした。そうした実態をふまえ、防災対策をすすめます。

市民の健康

子どもたちの2回目の甲状腺検査を早急に実施させます。建設中のコミュニティケア総合センターの活動を充実したものに育てるため、多方面の意見を求めます。

自然エネルギー

原発に未来はありません。経済のためにも、行政として再生可能エネルギーに正面から取り組むことを提案していきます。

ちなみに鈴木やす子では、この3年間、東電から電気は購入しないで暮らしています。エネルギーの自給をまちあこにつけます。

家庭の電気料や燃料への支出が仮に一戸あたり年間20万円だとすれば、市全体では30億円以上。それが市外・国外に流れ出てしまっています。この何割かでも自給すれば、そのまま地域経済が

北茨城市は、核兵器廃絶平和都市を宣言しています。児童の「ピロシマで学ぶ平和の旅」は毎年実施されています。そうした

平和への決意や努力も台無しにする安倍自公政権の戦争への道、絶対にストップさせるために力を合わせましょう。

高齢化がすすむなか、公共交通の充実は切実かつ緊急な課題となっています。もっと市民の声を聞いて、そのあり方を検討していきます。

やさしこまら

いじめの医療費は高校卒業まで無料化。高すぎる国保税の軽減、住宅リフォーム助成の拡充、生活道路の整備など、市民にやさしい施策に力を入れます。

談

いつお
藤田稜威雄さん
「北茨城・九条の会」代表世話人

党外からの応援

公共交通

す。住民の暮らしと安心・安全を守るべきはずのリーダーとは思えない無責任な言葉に腹たらしい限りです。

私は共産党員ではありませんが、私が耳にすること嬉しく思うことがあります。「なかなか表立っては言えないけど、選挙の時はやっぱり共産党しかないと考えて投票しているよ」という言葉です。

いまの国のやり方や地方自治体に疑問と不安を抱えている多くの人たちのためにも、行政のお目付け役として、多くの市民の声を議会に反映させていただきたく、鈴木議員にはがんばっていただきたいと思います。

安倍政権のもとで「憲法九条が好き」と言えない空気が作り出される一方で、野党・市民連合の活動が活発化しています。茨城県でも市民連合結成の記事が新聞に掲載されました。

多くの大手メディアが政権に取り込まれ、「つごうの悪いことは伝えない」ようになっています。支持率が高いようにみえる現政権が「やっていること、やろうとしていること」を、しっかり自分で考え確かめて行動しないと、私たちの暮らしダメになります。

原発は国が規制委員会が決めること、県・市が決めることではないという言葉を耳にします。茨城県知事も同じようなことを言っています。

くらしの願いつなぎ、市政を動かす



地元の切実な願いを県にもつなぎ、磯原町木皿～大塚の通学路を整備。



くらしと地域経済をこわすTPPに反対し、つくば市内での集会・パレードに参加。



だれの子どもも殺させない！
議会でも街頭からも戦争法案への反対を訴え。

廃炉しかない原発

6年前の原発事故の後、鈴木やす子議員は、被災し老朽化した東海第一原発の廃炉を求める請願の紹介議員となり、これが市議会で採択されました。茨城県内の大部分の市町村で同趣旨の請願や陳情が

なされました。福島県以外では初めて、すべての子どもが対象となりました。

当初、経費3700万円は市の独自予算でしたが、国の補助対象となりました。さらに日本共産党が取り組んだ国との交渉で、鈴木やす子議員は、2回目以降の検査にも国の予算がつき、他の自治体でも適用されるという回答を引き出しました。それがインターネットなどを通じて周知され、当市への視察や、鈴木議員のもとへの照会もあいつぎました。

住民の主人公

市議会として「北茨城民報」を毎週発行し、北茨城市の「いま」を伝えていました。バックナンバーはインターネットでも公開し、いつでも閲覧いただけます。

鈴木やす子議員は、いつも市民といつしょに運動し、議会のたびに質問。市政をチェックし、前回的な提案を重ねてきました。また毎年、市長に予算要望書を提出し、これに市は文書で回答しています。



毎年、市長に予算要望書を提出し、懇談。文書回答を受けて、さらに議会でも質問・要望。

本市の助成は、所得制限の枠がなく、通院も入院も対象になるなど、他市よりすんだ面もあります。さらに、隣の福島県や県内でも常陸太田市などで実現しているように、高校卒業まで無料化をはかることを求めています。

甲状腺検査は他市からも注目

原発から出た放射能による健康への影響が心配です。若いお母さんが中心になつて署名運動が展開され、それにも後押しされて、甲状腺の超音波検査がおこなわれました。福島県以外では初めて、すべての子どもが対象となりました。

当市、経費3700万円は市の独自予算でした。その後、市議会で採択されました。さらに日本共産党が取り組んだ国との交渉で、鈴木やす子議員は、2回目以降の検査にも国の予算がつき、他の自治体でも適用されるという回答を引き出しました。それがインターネットなどを通じて周知され、当市への視察や、鈴木議員のもとへの照会もあいつぎました。

セーフティネット

市の前向きな施策は大いに評価します。同時に見過さないのは、たとえば財政調整基金の一部を暮らしを守る予算にまわすよう求められて、市長は「どこの家でも数百万円とか數千万円の貯金はある」と。これを聞いて、怒りを抑えきれないでいる傍聴者もいました。

市長の認識に鈴木やす子議員は、貯蓄ゼロ世帯が増えている実態や、家計の中での食費の割合（エングル係数＝貧富の指標）が高まっている統計を示し、アベノミクスで格差と貧困が広がるもので、セーフティネットの構築は自治体の責務であると反論しました。



市議会の本会議における一般質問。
年4回の市議会で欠かさず登壇、発言。

市民病院をはじめ、家庭医療センター、消防庁舎、図書館などが次々と動き出し、北茨城市は着実に復興の歩みをすすめています。いっぽうで、たとえば国保税の減免世帯が7割ちかくにも達するなど、市民の暮らしはきびしさを増しています。そうしたなか、日本共産党の鈴木やす子市議は、住民の主人公の立場から市政をチェックし、積極的な提案で市政を動かしてきました。

子どもの医療費

子どもの医療費無料化を公約に掲げ、議会で取り上げてきました。3歳未満から、小学校入学前、同3年生まで、同卒業までと徐々に拡充され、現在は中学校卒業まで無料となっています。

本市の助成は、所得制限の枠がなく、通院も入院も対象になるなど、他市よりすんだ面もあります。さらに、隣の福

島県や県内でも常陸太田市などで実現しているように、高校卒業まで無料化をはかることを求めています。

採択されました。その先駆けの一つともなった誇るべき北茨城市的姿勢です。といふのが自公政権のもとで、安全を置き去りにしたまま、原発回帰が強まっています。マスクでの世論調査では脱原発の回答が多数です。それなのに、公の場では廃炉の声は小さくなっています。

発電事業に、住民のいのちや財産をかける。すでに6年間、原発ゼロで電気は十分に足りています。子どもたちの未来に、原発はいりません。